

科目 コード	51441	授業 科目	実践小児看護特論 I Practical Pediatric Nursing Theory I			担当 教員	○永島すえみ	
開講年次	博士前期課程 1～2年次前期		単位数	2単位	科目 分類	専門科目・特論	授業 形態	講義
選択必修	選択（分野必修）		時間数	30時間				
授業概要	保健看護の立場から小児とその家族を理解するために必要な諸理論を幅広く学び、各テーマに応じて実践経験または文献事例について諸理論を用いて分析する方法を学修する。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児と家族を理解することの必要性とその原則を説明できる。 2. 子どもと家族の反応および状況を発達の諸理論を用いて分析的に説明できる。 3. 子どもと家族の防衛機制と対処能力の発達を説明でき、逆境下で示す子どもと家族の反応を分析できる。 4. 子どものセルフケア能力の観点から親による子どもの躰の適切さを分析し評価できる。 5. 子どもの行動様式を気質的観点から分析し、親子の気質的適合性の意味を説明できる。 6. 子どもと家族に生じた問題について家族理論を用いて分析し、看護援助について検討できる。 							
回数	授 業 内 容 及 び 計 画					担当者名	授業 方法	
第1回	オリエンテーション ・子どもと家族を理解するための原則（文化的視座を含む）					永島すえみ	講義	
第2-3回	愛着および対人関係の発達に関連した事例の分析 ・愛着理論：ボウルビー、エインスワース、ラッター ・発達プロセスと重要他者との関係						講義	
第4-5回	認知の発達に関する保健看護に関連した事例の分析 ・認知発達理論：ピアジェ他 ・認知発達の個人差 ・健康、病気、死の概念発達と看護への応用						講義	
第6-7回	社会性の発達に関連した事例の分析 ・子どもの気質に関する理論（トマス&チェス）と看護への応用 ・道徳性に関する理論（コールバーグほか）と看護への応用 ・情緒の発達と看護への応用						講義	
第8-9回	セルフケア能力の発達に関連した事例の分析						講義	
第10-11回	家族理論を活用した事例の分析 ・家族システム理論 ・家族ストレス理論 ・家族発達理論 ・シンボリック相互作用理論ほか						講義	
第12-13回	ストレスへの対処能力の発達に関連した事例の分析 ・防衛機制とストレス対処理論（A.フロイト、ラザルス他）と看護への応用 ・発達の可塑性及び弾力性（レジリエンス）と看護への応用 自己概念および自我の発達に関連した事例の分析 ・自己および自我の発達理論と看護への応用 ・病気・障害や逆境が自己および自尊心に与える影響						講義	
第14-15回	総括						講義	

テキスト	Julia B. George. (1995/1998).南裕子, 野嶋佐由美, 近藤房恵(訳), 看護理論集ーより高度な看護実践のために 増補改訂版, 日本看護協会出版会.
参考文献	<p>Bowlby, J. (1979/1981). 作田勉(訳). ボウルビー母子関係入門. 岩崎学術出版会.</p> <p>Erickson, E. H. (/1982). 小此木敬吾(訳). 自我同一性. 誠心書房.</p> <p>波多野完治(編). (1982). ピアジェの発達心理学. 国土社.</p> <p>柏木恵子. (1983). 子どもの自己の発達. 東京大学出版会.</p> <p>小松美穂子, 前田和子, 奥宮暁子, 堀内ふき. (2001). 人間理解のための看護的アプローチ. 医学書院.</p> <p>黒田裕子 (監修) . (2009). 看護診断のためのよく分かる中範囲理論. Gakken</p> <p>Mahler M. S. (1975/2001). 高橋雅士, 織田正美, 浜畑紀(訳). 乳幼児の心理的誕生 母子共生と個体化. 黎明書房. 野川道子(編) . (2010). 看護実践に活かす中範囲理論. メヂカルフレンド社.</p> <p>Rutter, M. (1981/1984). 北見芳雄, 佐藤紀子, 辻祥子(訳), 続母親剥奪理論の功罪. 誠心書房.</p> <p>鈴木和子, 渡辺裕子. (2012). 家族看護学ー理論と実践第4版. 日本看護協会出版会.</p> <p>上田礼子. (2011). 生涯人間発達学. 三輪書店.</p>
成績評価	課題に対する到達度およびプレゼンテーションと討議への貢献度で評価する。
備考	事前に提示された課題について学生によるプレゼンテーションと質疑応答方式で行う。

科目 コード	51442	授業 科目	実践小児看護特論Ⅱ Practical Pediatric Nursing Theory II			担当 教員	○永島すえみ	
開講年次	博士前期課程 1～2年次通年		単位数	2単位	科目 分類	専門科目・特論	授業 形態	講義
選択必修	選択（分野必修）		時間数	30時間				
授業概要	我が国における小児保健、小児医療、福祉、教育の制度や政策を、歴史的観点から理解するとともに、子どもとその家族を取り巻く保健、医療、福祉、教育の現状と課題を把握し、その解決のために必要な調整の方法を含むさまざまな方略や対策を学修する。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国内外の小児医療・福祉および小児保健看護の歴史的変遷を説明できる。 2. 我が国のさまざまな状況にある子どもと家族が活用できる制度や政策を説明できる。 3. 我が国におけるさまざまな子どもと家族が直面している社会、保健、福祉上の課題を概観できる。 4. 沖縄県におけるさまざまな子どもと家族が直面している社会、保健、福祉上の課題を特定できる。 5. 上記課題について文献や経験から具体的な事例を挙げ、その解決の方略を提案できる。 6. 上記解決方略の実現のために、実施すべき調整の方法や行動について討議できる。 7. 子どもを取り巻く社会的課題を理解または解決するために活用できる法律および統計、資料、年鑑等の文献を収集し、その内容を解釈し活用できる。 							
回数	授 業 内 容 及 び 計 画					担当者名	授業方法	
第1回	オリエンテーション					永島すえみ	講義	
〃2-3〃	国内外の小児医療・福祉・教育および小児保健看護の歴史的変遷と課題						発表・討議	
〃4-5〃	我が国のさまざまな状況にある子どもと家族が現在活用できる小児保健・医療・福祉・教育の制度や政策と根拠となる法律ならびに条約など						発表・討議	
〃6-7〃	我が国の子どもと家族が直面している保健、医療、福祉、教育上の課題						発表・討議	
〃8-9〃	沖縄県の子どもと家族に関する保健、医療、福祉、教育の特徴と課題						発表・討議	
〃10-11〃	保健、医療、福祉、教育について文献や経験から具体的な事例を挙げ、分析し解決の方略を提案し検討する						発表・討議	
〃12-13〃	事例における課題の解決方略の実現のために、実施すべき調整の方法や行動に関する討議						発表・討議	
〃14-15〃	総括 子どもを取り巻く社会的な課題を分析するために必要な法律および統計、資料、年鑑等の文献収集と活用法の検討						発表・討議	
テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。							
参考文献	内閣府. (最新版). こども・子育て白書. 内閣府. (最新版). 子ども・若者白書. 日本子ども家庭総合研究所. (最新版). 日本子ども資料年鑑. KTC 中央出版 日本子どもを守る会(編), (最新版). 子ども白書. 子どもの貧困白書編集委員会(編), (2009). 子どもの貧困白書. 沖縄県福祉保健部健康増進課(最新版). 沖縄県の母子保健.							
成績評価	目標の到達度およびプレゼンテーションと討議への貢献度で評価する。							
備考	事前に提示された課題について学生によるプレゼンテーションと質疑応答方式で行う。							

科目 コード	51443	授業 科目	実践小児看護特論Ⅲ Practical Pediatric Nursing Theory III			担当 教員	○永島すえみ、當間隆也、大城達男、 松茂良力、中矢代真美、大城清哲、 比嘉猛、吉村 博、松岡剛司、藤原直 樹、井垣純子、池間尚子、木川和英、 宮城雅也	
開講年次	博士前期課程 1～2年次通年	単位数	2単位	科目 分類	専門科目・特論	授業形態	講義	
選択必修	選択(分野必修)	時間数	30時間					
授業概要	主に小児内科と小児外科の対象となり得る疾患の治療を理解し専門的ケアを提供するための病態生理、 検査と解釈法、治療法について学ぶ。							
到達目標	1. 小児期に特徴的な疾患の病態生理について説明できる。 2. 小児期に特徴的な疾患の診断に必要な検査と結果の解釈について説明できる。 3. 小児期に特徴的な疾患の治療法について説明できる。 4. 検査・治療を要する子どもとその家族に必要な専門的ケアを提案できる。							
回数	授 業 内 容 及 び 計 画				担当者名	授業方法		
第1回	オリエンテーション				永島すえみ			
第2回	先天異常・遺伝性疾患の病態と治療法				當間 隆也 (医師)	講義		
第3回	新生児の疾患の病態と治療法				大城 達男 (医師)	講義		
第4回	先天代謝異常・代謝疾患の病態と治療法				池間 尚子 (医師)	講義		
第5回	小児期に特徴的な内分泌疾患の病態と治療法				木川 和英 (医師)	講義		
第6回	小児期に特徴的な免疫疾患・アレルギー疾患・膠原病および類縁 疾患の病態と治療法				松茂良 力 (医師)	講義		
第7回	小児期に特徴的な感染症の病態と治療法				井垣 純子 (医師)	講義		
第8回	小児期に特徴的な呼吸器疾患の病態と治療法				松茂良 力 (医師)	講義		
第9回	小児期に特徴的な循環器疾患の病態と治療法				中矢代 真美 (医師)	講義		
第10回	小児期に特徴的な消化器疾患の病態と治療法				大城 清哲 (医師)	講義		
第11回	小児期に特徴的な血液・造血器疾患の病態と治療法				比嘉 猛 (医師)	講義		
第12回	小児期に特徴的な新生物の病態と治療法				比嘉 猛 (医師)	講義		
第13回	小児期に特徴的な腎・泌尿器および生殖器疾患の病態と治療法				吉村 博 (医師)	講義		
第14-15回	小児期に特徴的な神経・筋疾患の病態と治療法				松岡 剛司 (医師)	講義		
	検査・治療を要する子どもとその家族に必要な専門的ケア 選択した事例に必要な専門的ケアを提案し討議する				宮城 雅也 (医師)	発表・討議		
					藤原 直樹 (医師)			
					永島すえみ			
テキスト	北村 聖(編).(2013).臨床病態学 小児編.ヌーヴェルヒロカワ.							
参考文献	日野原重明, 井村祐夫(監修). (2007). 看護のための最新医学講座[第2版]14 新生児・小児科疾患. 中山書店. Richard E. Behrman, Robert M. Kliegman, Hal B. Jenson. (/2010). 衛藤義勝(監訳), ネルソン小児科学第 17版. エルゼビア・ジャパン. 河野寿夫(編). (2009). ベッドサイドの新生児の診かた. 南山堂.							
成績評価	教育目標の到達度とプレゼンテーションにより評価する							
備 考	実践的内容とするため、必要時は臨床での講義となることがある。							

科目 コード	51444	授業 科目	実践小児看護特論IV Practical Pediatric Nursing Theory IV			担当 教員	○永島すえみ 栗国敦男、松岡剛司 安慶田英樹、松茂良力 植田真一郎、仲村真理子	
開講年次	博士前期課程 1～2年次通年		単位数	2単位	科目 分類	専門科目・特論	授業 形態	講義
選択必修	選択(分野必修)		時間数	30時間				
授業概要	小児期における運動器・感覚器系疾患と精神疾患・心身医学的問題の治療法を理解し、専門的ケアを提供するための病態生理、検査と解釈法、治療法、症状マネジメントについて学ぶ。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児期に特徴的な疾患の病態生理について説明できる。 2. 小児期に特徴的な疾患の診断に必要な検査と結果の解釈について説明できる。 3. 小児期に特徴的な疾患の治療法について説明できる。 4. 小児期に特徴的な症状に対するマネジメントについて説明できる。 5. 検査・治療を要する子どもとその家族に必要な専門的ケアを提案できる。 							
回数	授 業 内 容 及 び 計 画					担当者名	授業方法	
第1回	オリエンテーション					栗国 敦男 (医師)	講義	
第2-3回	小児期に特徴的な運動器(骨および関節)の疾患の病態と治療法					松茂良 力 (医師)	講義	
第4-5回	小児期に特徴的な精神疾患・心身医学的問題の病態と治療法					松岡 剛司 (医師)	講義	
第6-7回	小児に特徴的な薬物動態・薬物代謝					植田 真一郎 (医師)	講義	
第8-9回	小児の検査基準値と年齢別変化					中村 真理子 (医師)	講義	
第10-11回	小児期に特徴的なアタッチメント障害のある子どもとその家族に必要な専門的ケアの検討					永島すえみ	講義・討議	
第12-13回	小児期に特徴的な症状・症候に対するマネジメント					宮城雅也・未定	講義・討議	
第14-15回	検査・治療を要する子どもとその家族に必要な専門的ケアの提案					永島すえみ	発表・討議	
テキスト	北村 聖(編).(2013).臨床病態学 小児編.ヌーヴェルヒロカワ.							
参考文献	日野原重明・井村祐夫(監).(2007).看護のための最新医学講座[第2版]14 新生児・小児科疾患.中山書店. 河野寿夫(編).(2009).ベッドサイドの新生児の診かた.南山堂. Richard E. Behrman, Robert M. Kliegman, Hal B. Jenson. (2010).衛藤義勝(訳).ネルソン小児科学 原著第17版.エルゼビア・ジャパン.							
成績評価	教育目標の到達度とプレゼンテーションで評価する							
備考	より実践的な学習とするため、必要時は臨床を活用した講義とすることもある。							

科目 コード	51445	授業 科目	実践小児看護特論V Practical Pediatric Nursing Theory V			担当 教員	○永島すえみ 上原和代	
開講年次	博士前期課程 2年次通年		単位数	2単位	科目 分類	専門科目・特論	授業 形態	講義
選択必修	選択（分野必修）		時間数	30時間				
授業概要	倫理的判断および臨床的判断に基づき、子どもとその家族への状況に応じた援助方法を修得するとともに、小児看護専門看護師の看護倫理上の役割を明らかにする。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 小児医療において起こりやすい倫理的問題とその取り組みの流れについて説明できる。 2 小児・家族に標準化されたモデルを用いて事例の倫理的判断ができる。 3 子どものケアに従事する看護師を含む医療従事者の倫理的感受性を高めるための方略を提案できる。 4 さまざまなスペシャルニーズを持つ子どもとその家族の臨床判断（倫理的判断を含む）ができ、適切な支援について説明できる。 5 小児とその家族に支援を提供するさまざまな場における小児専門看護師の役割について提案できる。 							
回数	授 業 内 容 及 び 計 画					担当者名	授業方法	
第1-2回	小児看護領域の看護倫理に関する取り組みと流れ ・日本小児看護学会の取り組み ・看護基礎教育のなかでの看護倫理 ・小児看護実践の場における看護倫理の継続教育					永島・上原	講義	
第3-4回	倫理的問題を有する子どもについてモデルを用いた事例検討					永島・上原	講義・討議	
第5-6回	医療従事者の倫理的感受性を高めるための方略の検討					永島・上原	発表・討議	
第7回	【スペシャルニーズのある子どもとその家族における臨床判断（倫理的判断を含む）と支援】 1) 救急外来を受診する子どもとその家族 2) 入院する子どもとその家族 3) 手術を受ける子どもとその家族 4) NICUに入院する子どもとその家族、先天性疾患や遺伝性疾患のある子どもとその家族 5) 重症心身障害をもつ子どもとその家族や在宅療養の子どもとその家族 6) 臓器あるいは骨髄移植を受ける子どもとその家族や終末期にある子どもとその家族 7) 虐待を受けた子どもとその家族					永島・上原	発表・討議	
第8回						永島・上原	発表・討議	
第9回						永島・上原	発表・討議	
第10回						永島・上原	発表・討議	
第11回						永島・上原	発表・討議	
第12回						永島・上原	発表・討議	
第13回						永島・上原	発表・討議	
第14-15回	総括 小児とその家族に支援を提供するさまざまな場における小児看護専門看護師の役割（倫理的課題への取組も含む）					永島・上原	発表・討議	
テキスト	Fry, S. T., Johnstone, M. J. (/2010)片田範子, 山本あい子(訳), 看護実践の倫理-倫理的意思決定のためのガイド第3版. 日本看護協会出版会.							

参考文献	<p>Davis, A. J. 他(編). (/2008). 小西恵美子(訳), 看護倫理を教える・学ぶ. 日本看護協会出版会.</p> <p>Hayes, L. J., Moore, S. C., et al. (/1998). 望月昭他(訳), 発達障害に関する 10 の倫理的課題. 二瓶社.</p> <p>日本小児看護学会. (2010). 小児看護の日常的な臨床場面での倫理的課題に関する指針. 日本小児看護学会. ホームページ http://jschn.umin.ac.jp/files/100610syouni_shishin.pdf</p> <p>ロバート・F・ワイヤー. (/1991) 高木俊一郎, 高木俊治(訳), 障害新生児の生命倫理. 学苑社.</p> <p>玉井真理子, 永水裕子, 横野恵(編). (2012). 子どもの医療と生命倫理 [第2版] 資料で読む. 法政大学出版局.</p> <p>玉井真理子, 横野恵, 永水裕子(編). (2009). 子どもの医療と生命倫理-資料で読む. 法政大学出版局.</p>
成績評価	<p>到達目標の達成度と討論への貢献度で評価する。</p>
備考	<p>授業内容 7～13 は、離島を含めた沖縄県の小児医療における倫理的問題、臨床判断および支援について、事例を用いて討論する。</p>

科目 コード	51446	授業 科目	実践小児看護演習 I Practical Pediatric Nursing Seminar I			担当 教員	○永島すえみ 上原和代	
開講年次	博士前期課程 1年～2年次通年		単位数	2単位	科目 分類	専門科目・演習	授業形態	演習
選択必修	選択(分野必修)		時間数	60時間				
授業概要	子どもとその家族の状態を包括的に査定するための原則と方略や技術・技法を学ぶ。また、援助効果を評価するための原則や手法を学び援助に結びつける方略を学ぶ。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもを系統的にフィジカルアセスメントする原則と方法を説明できる。 2. 各発達段階にある子どもを対象に、適切な方略と技術・技法を用いてアプローチできる。 3. 発達段階および健康状態に適した方法で子どもの発達を評価できる。 4. 発達スクリーニングと発達検査の違いについて説明でき結果を解釈できる。 5. 子どもの行動様式を評価し援助に活用できる。 6. 養育環境に関する視座を用い子どもの養育環境を分析し援助に活用できる。 7. 特殊な状態にある子どもの重症度を判断し援助に活用できる。 							
回数	授 業 内 容 及 び 計 画					担当者名	授業方法	
第1-2回	オリエンテーション 子どもや家族との面接技法 健康増進とカウンセリング					永島	演習	
第3-4回	システムレビュー① 新生児・乳児のフィジカルアセスメント					上原	演習	
第5-6回	システムレビュー② 幼児・学童のフィジカルアセスメント					〃	演習	
第7-8回	システムレビュー③ 思春期・青年期のフィジカルアセスメント					〃	演習	
第9-10回	発達の評価：発達スクリーニングと発達検査 ① JDDST T (Japanese Version of Denver Developmental Screening Test) DENVER II (デンバー発達判定法)					永島	演習	
第11-12回	発達の評価：発達スクリーニングと発達検査 ② PDQ (Prescreening Developmental Questionnaire)					上原	演習	
第13-14回	発達の評価：発達スクリーニングと発達検査 ③ 津守式乳幼児精神発達検査					永島・上原	演習	
第15-16回	発達の評価：発達スクリーニングと発達検査 ④ 遠城寺式乳幼児分析的発達検査法					永島	演習	
第17-18回	発達の評価：発達スクリーニングと発達検査 ⑤ 新版K式発達検査法					永島・上原	演習	
第19-20回	発達の評価：知能検査 知能検査の種類と援助への活用					永島・上原	演習	
第21-22回	子どもの養育環境と行動様式の評価 新生児と乳幼児の行動様式の理解 ブラゼルトンの新生児評価、トーマスとチェスの気質評価					永島・上原	演習	
第23-24回	子どもの養育環境の評価 JHSQ (日本版乳幼児の家庭環境評価法テスト用紙)					永島・上原	演習	

第25-26回	HOME (Home Observation for Measurement of the Environment) プロフェンブレンナーの社会生態学的視座 特殊な状態の評価と援助への活用 ① 摂食嚥下機能の評価と援助方法 栄養の評価と援助方法	永島・上原	演習
第27-28回	特殊な状態の評価と援助への活用 ② 重症心身障害児の重症度(大島分類) WeeFIM(Functional Independence Measure)など	永島・上原	演習
第29-30回	包括的アセスメントの事例検討 総括	永島・上原	演習・討議 発表・討議
テキスト	小野田千枝子(監), 土井まつ子他(編)(2001). 子どものフィジカル・アセスメント. 金原出版.		
参考文献	遠城寺宗徳. (2009). 遠城寺式・乳幼児分析的発達検査法-九州大学小児科改訂新装版. 慶應義塾大学出版会. Lynn S. Bickley. (/2007). 福井次矢, 井部俊子(訳), Bate's Guide to Physical Examination and History Taking. メディカル・サイエンス・インターナショナル. 日本摂食・嚥下リハビリテーション学会(編). (2010). 日本摂食・嚥下リハビリテーション学会・eラーニング対応, 第6分野, 小児の摂食・嚥下障害. 医歯薬出版. 新版K式発達検査研究会. (2008). 新版K式発達検査法2001年版—標準化資料と実施法—. ナカニシヤ出版. 津守 真, 磯部 景子. (1961). 乳幼児精神発達診断法—0才~3才まで. 大日本図書. 津守 真, 磯部 景子. (1965). 乳幼児精神発達診断法—3才~7才まで. 大日本図書. T. Berry Brazelton, J. Kevin Nugent. (/1998). 大城 昌平(訳), ブラゼルトン新生児行動評価. 医歯薬出版. Thomas, A. & Chess, S. (1980). The dynamics of psychological development. Brunner /Mazel. New York. 上田礼子. (1980). 日本版デンバー式発達スクリーニング検査-JDDST と PDQ. 医歯薬出版. Urie Bronfenbrenner. (1979). The Ecology of Human Development experiments by nature and design. Harvard University Press. Cambridge, massachusetts. W. K. Frankenburg, 日本小児保健協会. (2003). DENVER II-デンバー発達判定法. 日本小児医事出版社.		
成績評価	到達度の達成レベルの他、演習態度、報告内容、討議によって評価する。		
備考	9-18の「発達の評価」は、各回2事例以上を査定する。うち1事例は毎回査定し結果の比較を行う。		

科目 コード	51447	授業 科目	実践小児看護演習Ⅱ Practical Pediatric Nursing Seminar II			担当 教員	○永島すえみ、上原和代、 松茂良力、中矢代真美 大城清哲、吉村博、栗国敦男、 松岡剛司、宮城雅也		
開講年次	博士前期課程 1年次後期～2年次通年		単位数	2単位	科目 分類	専門科目・特論	授業 形態	演習	
選択必修	選択（分野必修）		時間数	60時間					
授業概要	小児期の一般的な疾患の診断・治療に必要な知識と技術に基づき、看護のアセスメント能力を修得する。また、健康上の問題がある子どもとその家族への状況に応じた援助方法を、倫理的判断および臨床判断に基づき、他職種との協働を含め探求、実施、分析、評価について学修する。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児のヘルスアセスメントができる。 2. 健康上の問題がある子どもとその家族の面接・相談援助方法について説明できる。 3. 健康上の問題がある子どもとその家族の包括的なアセスメントができる。 4. 健康上の問題がある子どもとその家族の看護援助の分析、評価ができる。 5. 倫理的課題に対するコンサルテーションの方法について説明できる。 6. 他職種との協働、地域連携について提案できる。 								
回数	授 業 内 容 及 び 計 画					担当 者名	授業 方法		
第1回	オリエンテーション					永島・上原	講義・演習		
第2-3回	小児の診察技術とアセスメント：呼吸系					松茂良 力 (医師)	講義・演習		
第4-5回	小児の診察技術とアセスメント：循環系					中矢代真美 (医師)	講義・演習		
第6-7回	小児の診察技術とアセスメント：消化系					大城 清哲 (医師)	講義・演習		
第8-9回	小児の診察技術とアセスメント：腎・泌尿・生殖器系					吉村 博 (医師)	講義・演習		
第10-11回	小児の診察技術とアセスメント：感覚系					松茂良 力 (医師)	講義・演習		
第12-13回	小児の診察技術とアセスメント：運動系					栗国 敦男 (医師)	講義・演習		
第14-15回	小児の診察技術とアセスメント：中枢神経系					松岡 剛司 (医師)	講義・演習		
第16-17回	主な生理的機能検査方法と看護援助、結果の判読 心電図、単純 X 線検査、特殊 X 線検査、超音波検査、脳波検査 視力検査、聴力検査など					宮城 雅也 (医師)	講義・演習		
第18-19回	健康上の問題がある子どもとその家族の面接・相談					永島・上原	演習		
第20-21回	健康上の問題がある子どもとその家族の包括的なアセスメント					永島・上原	演習		
第22-23回	健康上の問題がある子どもと永島その家族の看護援助の分析、評価					永島・上原	演習		
第24-25回	健康上の問題がある子どもとその家族の倫理的判断とコンサルテーション					永島・上原	演習		
第26-27回	健康上の問題がある子どもとその家族の看護援助に必要な協働					永島・上原	演習		
第28-29回	健康上の問題がある子どもとその家族の看護援助に必要な地域連携					永島・上原	演習		
第30回	総括					永島・上原	発表・討議		
テキスト	市川光太郎(編). (2012). 小児科診療基本技術マニュアル. 中外医学社.								

参考文献	<p>五十嵐隆(編). (2011). 小児科診療ガイドライン-最新の診療指針. 総合医学社.</p> <p>小熊栄二(編). (2012). 小児画像診断. (小児科臨床ピクシス). 中山書店.</p> <p>前垣義弘. (2012). 実践小児脳波入門-日常診療に役立つ脳波アトラス. 永井書店.</p> <p>永島正寛. (2012). 小児心電図テクニカルガイド-速習 12 誘導心電図の基礎と臨床. ヌンク.</p> <p>Staatz, G., et al. (/2010). 野坂俊介(監). わかる！小児画像診断の要点. メディカルサイエンスインターナショナル.</p> <p>スプラッドリー, J.P. (/2010). 田中美恵子, 麻原きよみ(訳), 参加観察法入門. 医学書院.</p>
成績評価	<p>演習内容と報告、討議の状況から評価する。</p>
備考	<p>実践的内容をとりあげるため、必要時に臨床での演習も取り入れる。</p>

科目 コード	51448	授業 科目	実践小児看護実習 I Pediatric Nursing Practicum I			担当 教員	○上原和代、永島すえみ 宮城雅也、田畑りえ子 鋏田晃子、宮里暁乃 武富博寿、平良弘子	
開講年次	博士前期課程 1年次後期～2年次通年	単位数	2単位	科目 分類	専門科目・特論	授業 形態	実習	
選択必修	選択（分野必修）	時間数	90時間					
授業概要	医学的視点から小児の診断・治療について理解を深め、医師・薬剤師などの役割を理解するとともに変化していく看護の役割を明確にし、他職種と相互的な役割をもち協働およびケアコーディネイトして、質の高いヘルスケアサービスの提供に貢献できる能力を養う。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児の代表的疾患について年齢・発達段階に応じた診断・治療のプロセスについて説明できる。 2. 小児の診断・治療にかかわる医師・薬剤師などの役割について説明できる。 3. 小児の診断・治療にかかわる他職種の役割と関連して看護師の役割を見直すことができる。 4. 小児の診断・治療にかかわる看護職の役割を明確にし、看護師の役割拡大の可能性を討論できる。 							
回数	授 業 内 容 及 び 計 画						担当者名	
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習方法 <ol style="list-style-type: none"> 1) 授業概要と到達目標を踏まえ、学生は個人目標を設定し実習計画書を作成する。実習施設選定・調整は担当教員とともに行う。 2) 実習計画書に則り、小児期に特徴的な疾患の診断治療プロセスを参加観察、およびフィジカルアセスメントを行い、病態の判断とその後の展開予測を行う。あわせて、小児看護専門看護師の役割を明確にする。 3) 学生は週に1度、事例検討会にてプレゼンテーション（診療録の内容等から事例の診療プロセスを要約）する。実習指導者・指導教員も討論に参加する。 4) 実習後は、診断・治療について10事例を報告する。 <ul style="list-style-type: none"> ● 病態判断とその後の展開の予測 ● 症状マネジメントの判断 ● 検査・薬剤処方予測 ※事例は発達段階、診断・治療段階、重症度などが偏らないよう留意する 2. 実習施設 県内外の小児総合医療施設または小児病棟をもつ総合病院等 						上原和代 ①沖縄県立南部 医療センター・こ ども医療センタ ー：宮城雅也(医 師)、田畑りえ子 宮里暁乃、鋏田晃 子 ②沖縄県立宮古 病院：武富博寿 (医師)、平良弘 子 ①②のうちいづ れかの施設で実 施する	
テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。							
参考文献	必要に応じ参考資料、参考文献などを適宜配付する。							
成績評価	目標の到達度および実習に対する姿勢等で評価する。							
備 考	実習時間および事例数にこだわらず、修得しうる時間をかけることが必要となる。							

科目 コード	51449	授業 科目	実践小児看護実習Ⅱ Pediatric Nursing Practicum II		担 当 教 員	○永島すえみ、上原和代 川口めぐみ、吉田佳織 門間智子、田畑りえ子、 鉾田晃子、宮里暁乃		
開講年次	博士前期課程 2～3年次通年	単位数	4単位	科目 分類	専門科目・特論	授業 形態	実習	
選択必修	選択(分野必修)	時間数	180時間					
授業概要	看護の難しい子どもとその家族に対し看護を実践し高度な実践技術を修得するとともに、コンサルテーション・教育・調整・倫理調整など小児看護専門看護師の役割を学修する							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児看護 CNS の指導のもとに、看護の難しい子どもとその家族を総合的にアセスメントし、専門知識に基づく的確な看護判断ができる。 2. 小児看護 CNS の指導のもとに看護判断に基づく看護計画を立案し、問題解決を図るためのケアを実践できる。 3. 小児看護 CNS の指導のもとに子どもと家族の倫理的問題を精査し、慎重に解決に取り組むことができる。 4. 小児看護 CNS の指導のもとに看護職者に対しケアを向上させるための教育機能について分析できる。 5. 小児看護 CNS の指導のもとに、看護職者を含むケア提供者に対してコンサルテーション事項を分析できる。 6. 小児看護 CNS の指導のもとに、必要なケアが円滑に提供されるために保健医療福祉にかかわる人々間のコーディネーションについて分析できる。 7. 小児看護 CNS の指導のもとに、倫理的な問題・葛藤について関係者間での倫理調整について分析できる。 							
回数	授 業 内 容 及 び 計 画				担 当 者 名		授 業 方 法	
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習方法 <ol style="list-style-type: none"> 1) 授業概要と到達目標を踏まえ、学生は個人目標を設定し実習計画書を作成する。実習施設選定・調整は担当教員とともに行う。 2) 実習計画書に則り、看護の難しい子どもとその家族に対し卓越した看護を実践する。フィジカルアセスメント、病態の判断とその後の展開予測を踏まえ、積極的に看護展開する。あわせて、コンサルテーション・教育・調整・倫理調整などの小児看護専門看護師の役割について学修する。 3) 事例検討会を週に1度行い、学生のプレゼンテーション(事例の看護プロセス、専門看護師の役割機能の学修状況を要約)し、実習指導者・指導教員も参加し討論する。 4) 実習後は、直接ケア5事例以上、コンサルテーション・教育・調整・倫理調整について1事例以上分析を行う <p>※事例は発達段階、診断・治療段階、重症度などが偏らないよう留意する。</p> 2. 実習施設 小児看護 CNS の所属している医療施設 最終的レポートは看護協会が公表している CNS の報告レポートの様式に準じて、小児看護専門看護師の機能に関する報告書を作成する。 				永島(小児) ①茨城県厚生農業協同組合連合会総合病院土浦協同病院:門間智子(小児看護 CNS) ②大阪母子医療センター(小児看護 CNS:川口めぐみ・吉田佳織) ③南部医療センター・こども医療センター(小児看護 CNS:田畑りえ子、鉾田晃子、宮里暁乃) ①②③のうちいずれかの施設で実施する。 *4週間実施		実習	
参考文献	必要に応じ参考資料、参考文献などを適宜配付する。							
成績評価	目標の到達度の他、実習態度、事例報告等で評価する。							
備 考	実習時間および事例数にこだわらず、修得しうる時間をかけることが必要となる。							

科目 コード	51450	授業 科目	実践小児看護実習Ⅲ Pediatric Nursing Practicum III		担当 教員	○永島すえみ、上原和代、 宮城雅也、田畑りえ子、鉦田晃子、 宮里暁乃		
開講年次	博士前期課程 2～3年次通年		単位数	4単位	科目 分類	専門科目・特論	授業 形態	実習
選択必修	選択（分野必修）		時間数	180時間				
授業概要	看護の難しい子どもとその家族に対し看護を実践し高度な実践技術を修得するとともに、コンサルテーション・教育・調整・倫理調整など小児看護専門看護師の役割を実践し、卓越した看護実践の維持・向上を推進するための提案と自己の課題を明確にする。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の難しい子どもとその家族を総合的に査定し、専門知識に基づく的確な看護判断ができる。 2. 看護判断に基づく看護計画を立案し、問題解決を図るためのケアを実践できる。 3. 子どもと家族の倫理的問題を精査し、慎重に解決に取り組むことができる。 4. 看護職者に対しケアを向上させるための教育機能について分析できる。 5. 看護職者を含むケア提供者に対してコンサルテーション事項を分析できる。 6. 必要なケアが円滑に提供されるために保健医療福祉にかかわる人々とのコーディネーションについて分析できる。 7. 倫理的な問題・葛藤について関係者間での倫理調整について分析できる。 8. 実習を通して、卓越した看護実践の維持・向上を推進するための提案、自己課題を明確にできる。 							
回数	授 業 内 容 及 び 計 画					担当 者名		授業 方法
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習方法 <ol style="list-style-type: none"> 1) 授業概要と到達目標を踏まえ、学生は個人目標を設定し実習計画書を作成する。実習施設選定・調整は担当教員とともに行う。 2) 実習計画書に則り、看護の難しい子どもとその家族に対し卓越した看護を実践する。フィジカルアセスメント、病態の判断とその後の展開予測を踏まえ、積極的に看護展開する。あわせて、コンサルテーション・教育・調整・倫理調整などの小児看護専門看護師の役割を実践する。 3) 事例検討会を週に1度行い、学生のプレゼンテーション（事例の看護プロセス、専門看護師の役割機能の学修状況を要約）し、実習指導者・指導教員も参加し討論する。 4) 実習後は、コンサルテーション・教育・調整・倫理調整について各1事例以上分析を行う（実践小児看護実習Ⅱの事例と合わせてコンサルテーション・教育・調整・倫理調整について各2事例以上分析する） <p>※事例は発達段階、診断・治療段階、重症度などが偏らないよう留意する。また離島から入院加療中の事例を含めるよう努める。</p> 2. 実習施設 県内外の小児総合医療施設または小児病棟をもつ総合病院等最終的レポートは看護協会が公表しているCNSの報告レポートの様式に準じて、小児看護専門看護師の機能に関する報告書を作成する。					永島すえみ、 上原和代 ① 沖縄県立南部医療 センター・こども医 療センター： 医師：宮城雅也 小児看護 CNS：田畑 りえ子、鉦田晃子、宮 里暁乃 *4週間実施する		実習
参考文献	必要に応じ参考資料、参考文献などを適宜配付する。							
成績評価	目標の到達度の他、実習態度、事例報告等で評価する。							
備 考	実習時間および事例数にこだわらず、修得しうる時間をかけることが必要となる。							

科目コード	51451	授業科目	実践小児看護課題研究 Pediatric Nursing Problem Study			担当教員	◎永島すえみ 上原和代	
開講年次	博士前期課程 1～3年次	単位数	2単位	科目分類	専門科目・課題研究	授業形態	演習	
選択必修	選択(分野必修)	時間数	60時間					
授業概要	小児看護領域に関連した現場で(自分が)直面する課題に焦点をあて、講義・演習・実習を通して得た課題の知識・技術を参考に、看護実践の改善・改革に関する報告書を作成する。							
到達目標	1. 研究指導教員の指導の下で研究課題を明確化し、看護実践上の問題の追及ならびにその改善・改革を考究できる。 2. 論理的・倫理的思考ができ、実践における事実や思考過程のプロセスを記述できる。 3. 専門職者として生涯学習する態度を身につける。							
回数	授業内容及び計画					担当者名	授業方法	
1年次	<2年間での修了予定の場合> 4月 入学時ガイダンス：実践看護の課題に関するオリエンテーション* 研究指導教員希望届の提出・決定* 履修指導、履修届の提出* <11月～6月 CNS実習 I (4単位)> 実習体験を通して課題を明確化する。 4月 課題研究計画書の作成 研究倫理審査申請 研究フィールドの依頼と決定 5月 研究課題にそって情報収集・情報分析 6月・10月(2月)総合科目試験 * <7月～ CNS実習 II (2単位)> 10月(4月) 課題研究報告書作成 主査・副査の決定 考察・論文作成 12月(6月) 課題研究報告書(第1稿)・学位審査申請書の提出 * 1月(7月) 中間発表会、課題研究報告書(最終稿)の提出 * 2月(8月) 課題研究報告書審査・最終試験 * 合否及び修了判定 3月(9月) 公開発表会 * 課題研究報告書(保存版)の提出 * ※()内は前学期修了予定の日程					永島・上原	演習 発表・討議	
2年次								
.....								
.....								
.....								
.....								
.....								
.....								
.....								
.....								
1年次	<3年間での修了予定の場合> 4月 入学時ガイダンス：実践看護の課題に関するオリエンテーション* 研究指導教員希望届の提出・決定* 履修指導、履修届の提出* <11月～3月 CNS実習 I (2単位)>					永島・上原	演習 発表・討議	

<p>2年次</p> <p>3年次</p>	<p>実習体験を通して課題を明確化する。</p> <p><4月～3月 CNS実習Ⅰ(2単位)></p> <p>実習体験を通して課題を明確化する。</p> <p>4月 課題研究計画書の作成</p> <p>研究倫理審査申請 研究フィールドの依頼と決定</p> <p>5月 研究課題にそって情報収集・情報分析</p> <p>6月・10月(2月)総合科目試験*</p> <p><4月～ CNS実習Ⅱ(2単位)></p> <p>10月(4月) 課題研究報告書作成</p> <p>主査・副査の決定 考察・論文作成</p> <p>12月(6月) 課題研究報告書(第1稿)・学位審査申請書の提出*</p> <p>1月(7月) 中間発表会、課題研究報告書(最終稿)の提出*</p> <p>2月(8月) 課題研究報告書審査・最終試験*</p> <p>可否及び修了判定</p> <p>3月(9月) 公開発表会*</p> <p>課題研究報告書(保存版)の提出*</p> <p>※()内は前学期修了予定の日程</p>		
<p>テキスト</p>	<p>関連資料、文献などを適宜配付する。</p>		
<p>参考文献</p>	<p>APA. (2001/2004). 江藤裕之, 前田樹海, 田中建彦. (訳), APA 論文作成マニュアル. 医学書院.</p> <p>山本 力, 鶴田 和美(編). (2001)心理臨床家のための「事例研究」の進め方. 北大路書房.</p>		
<p>成績評価の方法</p>	<p>審査委員会により総合科目試験(口頭及び筆答による)、課題研究報告書の審査および最終試験(口頭又は筆答による)を行う。</p>		
<p>備考</p>	<p>注) *印のついた項目は、日程または提出期限が定められるものである。したがって、各自掲示には十分注意を払うこと。</p> <p>◎は研究指導教員、それ以外は研究指導補助教員を示す。</p>		